

ケイマフリ 英: Spectacled Guillemot 学: *Cephus carbo*

1. 分類と形態

分類: チドリ目 ウミスズメ科

全長: 37cm
 自然翼長: 194.38mm(191.80-197.60mm)
 嘴峰高: 42.17mm(39.24-46.05mm)
 ふ蹠長: 37.41mm(35.50-39.12mm)
 尾長: 52.29mm(50.39-54.52mm)
 体重: 680g (576-760g)

※ 全長は高野(1982)による. その他の成鳥の平均測定値(n=5)は南ら1991による.

羽色:

夏羽では, 全身が黒というよりも少し薄い感じでチョコレート色よりも少し濃い色をしている. 目の周りが白く, それが後ろ側に切れ長に伸びている. 足と口の中が真っ赤で, 名前のケイマフリは, アイヌ語のケマ・フレ(赤い足)から由来している. 天売島などでは, アカアシと呼ばれている(写真1).

冬羽では, 夏羽と同じく目の回りは白く上面が墨色で下面が白いツートンカラーである(写真2).

巣立った直後の幼鳥は, 目の周りが白く上面がうすいこげ茶色, 下面は白色とうすいこげ茶の斑模様である(写真3).

鳴き声:

繁殖期には陸上や海上, そして巣穴でも「フィフィーフィー」と大きく甲高い声で, とてもよく鳴く.



写真1. 岩に上陸して鳴くケイマフリ成鳥夏羽.



写真2. ケイマフリ冬羽.



写真3. ケイマフリ幼鳥.

2. 分布と生息環境

分布:

世界的には, 極東アジアのロシアのサハリン, 沿海地域からカムチャツカで繁殖する. 国内では, 北海道の天売島や松前小島, 霧多布岬周辺, 大黒島, ユルリ島, 本州は青森県尻屋崎で繁殖し, 北方領土では歯舞群島, 国後島, 色丹島, 択捉島で繁殖する. 天売島では, 1949年6月下旬7000羽(Austin & Kuroda1953), 1963年3000羽(黒田1965), 1994年294羽(福田ら1995)と繁殖数は減少している.

岩手県三貫島(佐藤文男氏私信), 山形県御積島(高橋1972), 根室半島太平洋側の花咲港周辺(阿部・松木1968), 室蘭地球岬(Austin & Kuroda1953), 道南恵山岬(黒田1965)などの地域でも繁殖していたが, 近年は繁殖が確認されなくなった.

3. 生活史

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月
				繁殖期			非繁殖期				

繁殖環境:

海に面した, 切り立った崖や急斜面の岸壁や岩礁などの岩の穴や隙間を利用して巣とする.

繁殖期間:

知床半島では, 年にもよるが3月中旬から下旬の流水が去った直後から繁殖地周辺に現れる. 親鳥がヒナに餌を持ち帰る時期から推測すると, 5月中旬から下旬に産卵し, 6月中旬から下旬に卵が孵化して育雛期に入り7月下旬から8月上旬にヒナが巣立つ. 8月中旬になると親鳥の姿はほとんど見られなくなり繁殖地から姿を消す.

卵・抱卵期:

一腹卵数は2卵. 抱卵期間の報告は見当たらなかった. 卵サイズ(長径×短径mm)は, $65.4 \pm 2.4(\text{SD}) \times 44.5 \pm 0.57(\text{SD})\text{mm}$ (n=15) (桜澤2001).

育雛期・巣立ち:

天売島でのヒナの在巢期間は40~45日(Thoresen1984)という報告がある. また, 青森県尻屋崎の弁天島では, 同巢の2羽のヒナのうち1羽が43日で巣立ち2羽目のヒナが53日で巣立ったという報告がある(桜澤2001).

天売島での巣立ち日直前のヒナの形態計測値は, 体重460~620g(親鳥の67.6~91.2%), 翼長が124.9~149.8mm(親鳥の64.3~77.1%)であった. 給餌頻度は, $9.8 \pm 1.4(\text{SD})$ 回/日(n=1)であった(南ら1991).

4. 食性と採食行動

食性・採餌環境:

天売島でのヒナへの給餌生物は, アカガヤ, イカナゴ, ギンポ類の3種(南ら1991). 知床半島では, 2007年の調査では, ヒナに給餌するために親鳥がくわえていた餌は, イカナゴ7例, ツマグロカジカ1例, カレイ類1例, ニジカジカ1例, ベロカジカ2例, ギンポ科2例, カジカ科1例で, イカナゴが最も多かった.

2008年の調査では, イカナゴ23例, ギンポ類6例, カタクチイワシ2例を記録し, 最もイカナゴを多く捕食していた. また, 他の年にはハタハタを捕食している個体も観察した. 東北地方の三陸海岸で冬季に採集したケイマフリの胃中より, マゴチ属, タコ, 小型のカニ(Austin & Kuroda1953),



写真4. イカナゴの群れ.

ヌメリゴチ、イイダコが検出されている(黒田1955)。

知床での採餌環境は、水深が50m未満で海底環境が砂質の所で最も多く採餌していた。また、最も多く採餌していた海中を潜水調査したところ、多くのイカナゴが生息し海底の砂の中からも多くのイカナゴが飛び出してきた。

5. 興味深い生態や行動、保護上の課題

● 知床では

知床半島での繁殖地は、半島の北西海岸、斜里町側ウトロ市街地の東側のプユニ岬から知床五湖の断崖付近までの狭い地域で確認されている。ここは、観光地としての「知床」と重なっている。知床での生息数は、2004年140羽を数えたが、2008年98羽、2009年96羽と数を減らしている(図)。生息数が100羽を切ると、その地域からの絶滅の危険性があると言われており、現状は危険な状況にある。

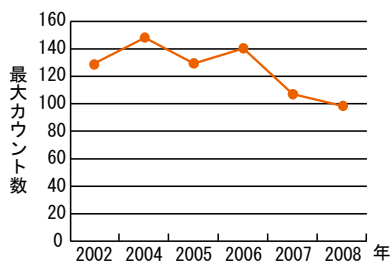


図. 知床半島におけるケイマフリの経年変化。

知床で個体数が減少した原因として考えられているのは、知床が世界自然遺産に推薦される頃から増えはじめた小型観光船(写真5)の影響である。この観光船は、



写真5. ケイマフリに接近して航行する観光船。

40km/h前後の高速で、ケイマフリの生息している海域や繁殖地の近くを、多いときで1日20回以上航行している。観光船から逃げ惑うケイマフリを日に何度も目撃しており、また、繁殖していた場所も小型観光船の接近しない場所へと移動している。

● 今後の課題と保護の問題点

幸いにも、知床半島の斜里側では、潜水性の鳥類にとって最も脅威である海のカスミ網「刺し網」による漁業がほとんど行われておらず、サケマスを中心とした定置網による漁業が主であり、漁業での混獲は少ないと考えられる。

しかし、先述したように観光船の航路とケイマフリが繁殖期に生息する海上とがぴったりと重なっている。

この問題を打開するため、昨年より環境省が中心となりケイマフリの保護を中心とする「海域利用の適正化」を検討する話し合いが、観光船業者、観光業者、地元の漁業協同組合、斜里町役場、海鳥研究者を集めて行っている。しかし、「観光船業者の中には海鳥の保護も大切かも知れないが我々も商売だから」という反発もあった。

今後とも、この鳥の貴重性と生息地としての知床の重要

性を説き、粘り強く観光船業者を説得し理解を求め海域利用のルールの設定を行い、ケイマフリが安定して生息できる環境整備が必要である。

また、2002年から続いている生息数と繁殖数のモニタリング調査を今後も継続して行い、ケイマフリが安定して生息できる生態系を維持し、生息環境の変化に注意をはらえるように、各生物のモニタリング調査を行い、問題が起こればすぐに対処できる体制を整えることが重要であると考え。

● 普及活動

知名度の低いケイマフリを少しでも有名にしたい。ケイマフリをモチーフとした「日本手ぬぐい」も販売している(写真6)。この収益はケイマフリの保護にというほどの利益はないが、少しでもケイマフリのことを知ってもらえることが保護への一歩であると考えている。また、知床の海鳥を紹介した「知床の海鳥」のパンフレットも作成し、地元の知床博物館や知床自然センター、知床博物館などで配布している。



写真6. ケイマフリをモチーフとした日本手ぬぐい。

6. 引用・参考文献

- 阿部学, 松木勝彦. 1968. 根室市花咲港付近の鳥類. 鳥. 18:227-246.
 Austin, O.L. & Kuroda, N. 1953. The birds of Japan: Their status and distribution. Bull. Mus. Comp. Zool. Harvard, 109:279-613.
 福田佳弘, 綿貫豊, 林英子, 加藤明子. 1995. 海鳥(ウミガラス・ウトウを除く)の個体数および営巣場所の変化. ウミガラス等海鳥群集生息実態調査報告書, 1992~1994年, 北海道環境科学研究センター, pp.16-22.
 黒田長久. 1963. 天売島海鳥調査(附陸鳥). 山階鳥研報, 3:365-383.
 黒田長久. 1965. 北海道の鳥類調査. 山階鳥研報, 4:224-268.
 黒田長久. 1955. 北日本太平洋岸冬季の鳥類. Vogel, 12:5-29.
 南浩史, 小城春雄. 1991. ケイマフリ *Cephus carbo* の形態およびその機能. 北大水産葉報, 42:160-181.
 桜澤郁子. 2001. 青森県尻矢崎港の弁天島におけるケイマフリ *Cephus carbo* の繁殖生態, 北海道大学水産学部修士論文.
 高野伸二. 1982. フィールドガイド日本の野鳥. 日本野鳥の会. 東京.
 高橋多蔵. 1978. 鳥海山・飛島の鳥類. 鳥海山・飛島総合学術調査報告, 山形総合学術調査会, pp.173-203, 412pp.
 Thoresen, A.C. 1984. Breeding phenology and mid-seasonal social behavior of the Sooty-Guillemots on Teuri Island Japan. Western Bird, 15:145-158.

執筆者

福田 佳弘

知床海鳥研究会代表



天売島から知床ウトロへ移住して早13年。ケイマフリの保護を訴え続けて8年ほどになりました。環境省も保護に非常に前向きに行動してくれています。ケイマフリの保護は今がチャンスで頑張りどころです。